

8. 児童館

【施設の基本的な管理方針】

施設の設置状況や児童・生徒数等の推計を踏まえ、再編整理や民間事業者への管理運営委託の推進を検討します。

1. 現状と課題

(1) 施設の概要と配置状況

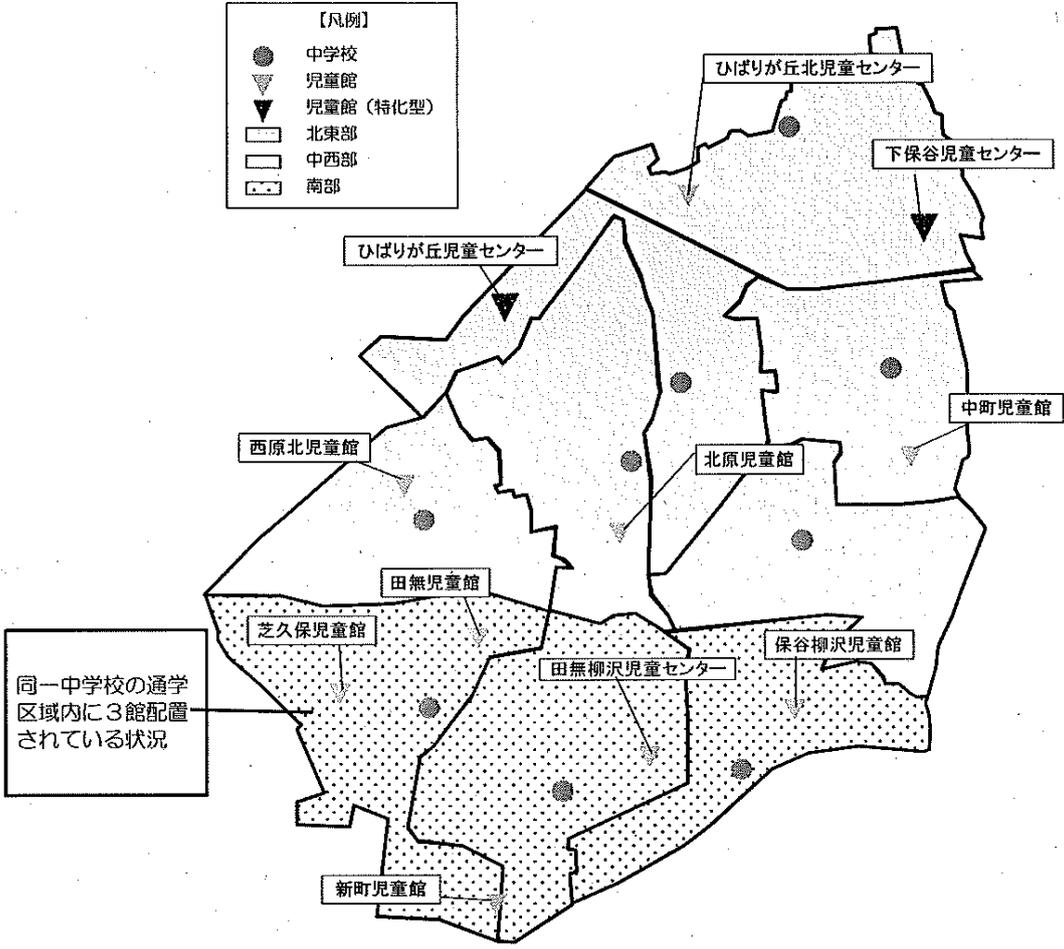
〇本市の児童館は、平成28（2016）年4月現在で11施設設置されていますが、これは近隣市や都内同規模類似団体の平均よりも多い状況です。面積1kmあたりの施設数や、施設平均面積、年間利用者数といった面からも、近隣市等の平均を上回っています。

	施設数	面積1kmあたり	施設平均面積		施設平均面積 (㎡)	年間利用者数 (人)
			公設公営	公設民営		
西東京市	11	0.7	9	2	742.2	419,295
近隣市の平均	3.1	0.2	2.7	0.4	716.4	107,873
都内同規模類似団体の平均	7.3	0.3	5.9	1.3	573.1	203,251

※出典：「平成26年度東京の児童館・学童クラブ事業実施状況」（東京都福祉保健局少子社会対策部）
※西東京市の数値は平成28年4月現在

- 〇施設の配置については、概ね中学校区に1施設の配置を目安としていますが、それを上回る配置となっているエリアが存在していることから、児童館の再編整理に向けて取り組んでいます。
- 〇平成23（2011）年度には、老朽化した下保谷児童館とひばりが丘児童館の建て替えを行い、中学生・高校生年代の居場所機能を付加した特化型児童館として、下保谷児童センターとひばりが丘児童センターを開設しました。
- 〇平成25（2013）年度にはひばりが丘児童センターと近接していたみどり児童センターを廃止し、平成26（2014）年度には西原北児童館と近接していた西原児童館を廃止するなど、再編整備を図ってきました。

児童館の配置状況と中学校の通学区域



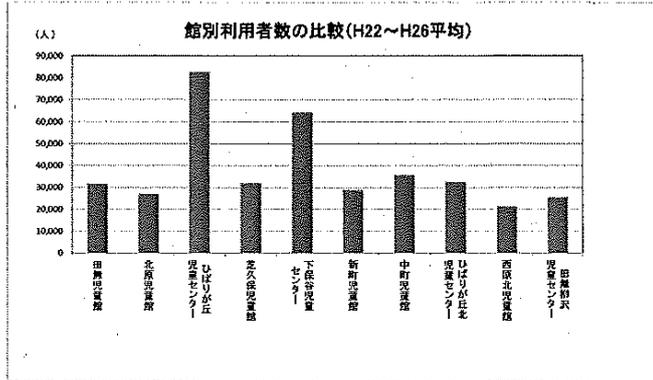
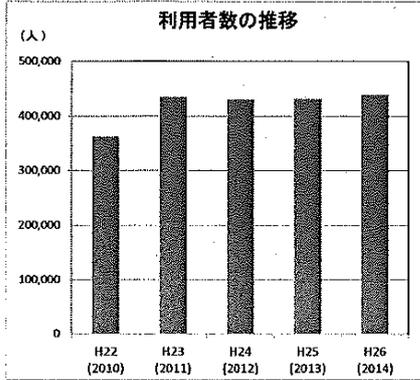
(2) 施設の劣化状況

○西東京市耐震改修促進計画において、中町児童館、ひばりが丘北児童センター、西原北児童館、田無柳沢児童センターの4施設については、平成32（2020）年度までに耐震化率を100%とすることを目標として掲げていることから、耐震対応が必要です。

施設名称	延床面積 (㎡)	構造種類	建築年	経過年数	劣化状況 (平成25年度調査)	所有	併設施設
田無児童館	488	RC	1978	38	A	借受	学童クラブ
西原北児童館	467	RC	1980	36	A	市有	学童クラブ
北原児童館	325	RC	2006	10	A	市有	学童クラブ
中町児童館	461	RC	1978	38	A	市有	学童クラブ
芝久保児童館	432	RC	2001	15	A	市有	学童クラブ
田無柳沢児童センター	353	RC	1980	36	A	市有	学童クラブ
新町児童館	415	RC	1977	39	C	市有	新町福祉会館、学童クラブ
ひばりが丘北児童センター	460	RC	1978	38	A	市有	学童クラブ
保谷柳沢児童館	528	RC	1994	22	C	市有	学童クラブ
下保谷児童センター	2,056	RC	2011	5	A	市有	下保谷福祉会館、学童クラブ
ひばりが丘児童センター	2,179	RC	2011	5	A	市有	そよかせ保育園、学童クラブ

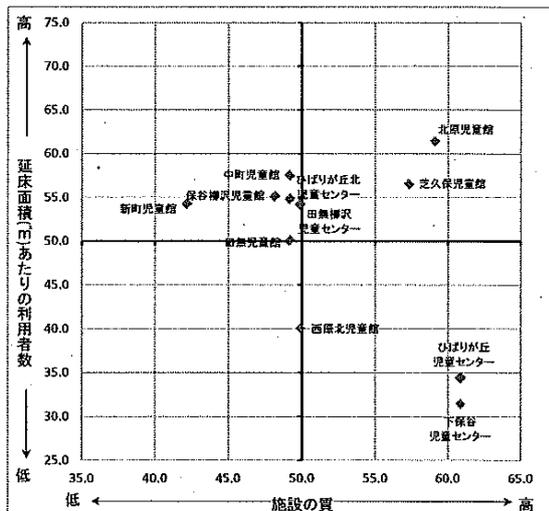
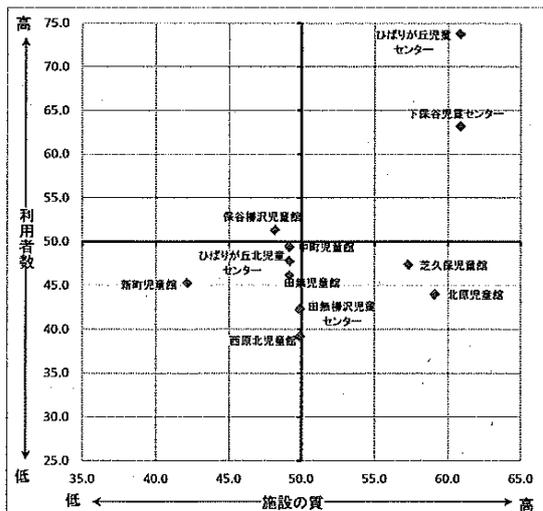
(3) 施設の利用・運営状況

- 過去5年間の利用者数の推移を見ると、平成23年度からほぼ横ばいの状況で推移しています。
- 館別利用者数の比較では、特化型児童館であるひばりが丘児童センターと下保谷児童センターの利用者が多くなっています。特化型児童館であるひばりが丘児童センターと下保谷児童センターは、民間委託による運営を行っています。



(4) ポートフォリオ図から見える課題の考察

- 利用者数で見ると、西原北児童館が低位にあります。今後は、要因の分析と利用者の意見聴取を踏まえ、利用者増に向けた対応が望まれます。
- 延床面積あたりの利用者数で見ると、ひばりが丘児童センターと下保谷児童センターが低位にあります。特化型児童館は、中学生・高校生の居場所機能が付加され、延床面積が他の施設よりも広く建築されています。
- 施設の質で見ると、新町児童館が低位にあり、今後は老朽化対応が望まれます。



2. 見直しの方向性

① 施設配置数の適正化 <基本方針1・2> **短期目標** **中長期目標**

現在の施設数が近隣市等の平均よりも突出して多いこと、過去5年間で利用者数の大きな増加が見られず、また、今後も見込まれないことなどを踏まえ、児童館の再編についての方針を決定します。

従来から「概ね中学校区に1か所程度」を基本的な考えとしてきた経過を踏まえ、当面はその水準を目安として見直しを進めることとし、中学校3校を3グループに分け、下表に示す方向性により各エリアの児童館を3～4館に整理していきます。

エリア		施設数	施設の見直しの方向性
北東部	青嵐中、明保中、保谷中	3	(現状維持)
中西部	ひばりが丘中、田無第二中、 田無第三中	3	(現状維持)
南部	田無第一中、田無第四中、 柳沢中	5	田無児童館・田無柳沢児童センター・新町児童館 を1～2館に再編整理

南部地域の施設の再編整理にあたっては、「西東京市人口ビジョン」等に基づく児童・生徒数の推計や地域の需要動向を踏まえ、利用者数の増加が見込める特化型児童館の設置も含めた対応を図っていきます。また、低利用・老朽化に課題のある施設については、利用状況や利用者の意見聴取等を踏まえ、適切な対応策を検討します。

② 運営の効率化とサービス拡充に向けた検討 <基本方針2> **短期目標**

平成23(2011)年度から導入した運営業務の民間委託について、利用者アンケート等を通じて評価・検証を行い、委託導入の効果と課題等を整理した上で、基幹型児童館の設置の検討とあわせ、学童クラブとの一体的な委託化の方針を決定します。

③ 施設の耐震対応 <基本方針3> **短期目標** **中長期目標**

西東京市耐震改修促進計画における耐震化目標(平成32(2020)年度までに耐震化100%)の達成のためには、児童館の耐震対応について具体的な対応策を決定する必要があります。

このため、耐震性に課題のある中町児童館、ひばりが丘北児童センター、西原北児童館、田無柳沢児童センターの4施設については、順次耐震診断を実施し、診断結果を踏まえた対応を進めます。

3. 今後の取組スケジュール

短期(～平成30年度)	中長期(～平成45年度)
◇児童館再編方針の決定	◇児童館の再編整理*
◇南部地域における児童館の再編整理の検討	◇南部地域における児童館の再編整理
◇委託化方針の決定	◇方針に基づく委託化の順次拡大*
◇施設の耐震対応	◇施設の耐震対応

(※印のあるものは前段の検討の結果により実施の是非を含めて判断)

9. 学童クラブ

【今後の施設の基本的な管理方針】

小学校の余裕教室等の活用や他の施設の転用などを図ることにより、需要増に対応します。
また、将来的には児童数の減少が見込まれることから、地域の需要動向を適切に把握し、施設の適正規模・適正配置を検討します。

1. 現状と課題

(1) 施設の概要と配置状況

○学童クラブは、小学校に就学している児童（第5学年及び第6学年は心身に障害のある児童）の保護者が就労、疾病等により昼間家庭にいられない場合、保護者に代わって生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行う施設として設置されています。

○本市の学童クラブは、平成28（2016）年4月現在、33施設設置されています。これは近隣市の平均よりも多く、都内同規模類似団体の平均とほぼ同水準にあります。面積1km²あたりの施設数や小学校1校あたりの施設数、定員、登録児童数、登録児童数の定員超過率では、近隣市等の平均を上回っています。

	施設数	面積 1km ² あたり	小学校 1校 あたり	定員 (人)	登録 児童数 (人)	登録児童 数の定員 超過率
西東京市	33	2.10	1.83	1,620	1,933	119%
近隣市の平均	20.7	1.46	1.62	1,043	1,074	103%
都内同規模 類似団体の平均	33.1	1.48	1.81	1,549	1,581	102%

※出典：「平成27年度 東京都各市町学童クラブ実施状況（平成27年11月）」

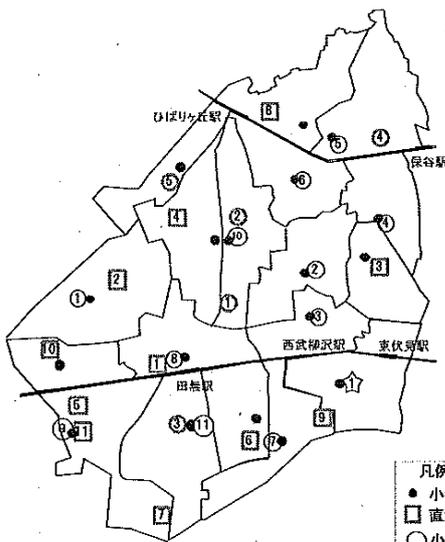
※西東京市の数値は平成28年4月現在

- ① 田無学童クラブ
- ② けやき第二学童クラブ
- ③ 中町・中町第二学童クラブ
- ④ みどり学童クラブ
- ⑤ 芝久保学童クラブ
- ⑥ 田無柳沢学童クラブ
- ⑦ 新町学童クラブ
- ⑧ ひばりが丘北・ひばりが丘北第二学童クラブ
- ⑨ 保谷柳沢学童クラブ
- ⑩ 北芝久保学童クラブ
- ⑪ 上向台第二学童クラブ

- ① 北原学童クラブ
- ② 谷戸学童クラブ
- ③ 向台学童クラブ・向台第二学童クラブ
- ④ 下保谷学童クラブ
- ⑤ ひばりが丘第一学童クラブ・第二学童クラブ

- ① けやき学童クラブ
- ② 本町学童クラブ
- ③ 本町第二学童クラブ
- ④ 東学童クラブ
- ⑤ 保谷第一学童クラブ
- ⑥ 住吉学童クラブ
- ⑦ 保谷柳沢第二学童クラブ
- ⑧ 田無第二学童クラブ
- ⑨ 上向台学童クラブ
- ⑩ 谷戸第二学童クラブ
- ⑪ 向台第三学童クラブ

- ☆ 東伏見学童クラブ・東伏見第二学童クラブ



- 凡例
- 小学校
 - 直営学童クラブ
 - 小学校併設直営学童クラブ
 - ⊖ 公設民営学童クラブ
 - ☆ 小学校併設公設民営学童クラブ

(2) 施設の劣化状況

○西東京市耐震改修促進計画において、北芝久保学童クラブ、中町・中町第二学童クラブ、ひばりが丘北・ひばりが丘北第二学童クラブ、けやき第二学童クラブ、田無柳沢学童クラブの5施設については、平成 32 (2020) 年度までに耐震化率 100%とすることを目標として掲げていることから、耐震対応が必要です。

○保谷柳沢学童クラブは、外構の劣化が進んでいます。

○保谷柳沢第二学童クラブは、建築外部の劣化が進んでいます。

○上向台学童クラブは、平成 27 年度に上向台小学校校舎内に移転しました。

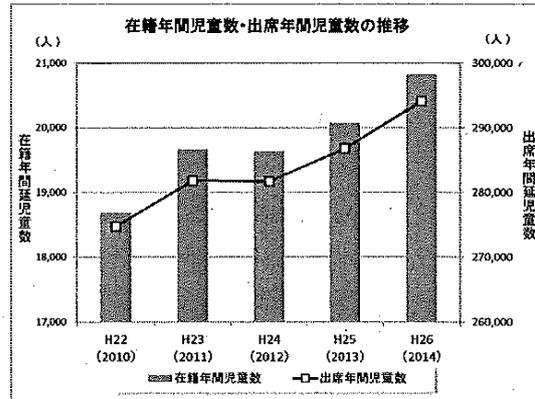
施設名称	延床面積 (㎡)	構造 種類	建築年	経過 年数	劣化状況 (平成25年度調査)	所有
田無学童クラブ	112	RC	1978	38	A	借受
けやき第二学童クラブ	93	RC	1980	36	A	市有
けやき学童クラブ	342	RC	2003	13	A	市有
本町学童クラブ	126	RC	1978	38	B	市有
本町第二学童クラブ	180	RC	1979	37	B	市有
中町学童クラブ	72	RC	1978	38	A	市有
中町第二学童クラブ	59	RC	1978	38	A	市有
東学童クラブ	314	LS	1992	24	A	市有
北原学童クラブ	203	RC	2006	10	A	市有
谷戸学童クラブ	288	RC	2000	16	C	市有
谷戸第二学童クラブ	63	RC	1972	44	D	市有
みどり学童クラブ	464	RC	1984	32	C(※)	市有
芝久保学童クラブ	76	RC	2001	15	A	市有
田無柳沢学童クラブ	108	RC	1980	36	A	市有
新町学童クラブ	69	RC	1977	39	A(※)	市有
向台学童クラブ	218	RC	1996	20	A	市有
向台第二学童クラブ	225	RC	1996	20	A	市有
保谷第一学童クラブ	61	RC	1967	49	A	市有
ひばりが丘北学童クラブ	71	RC	1978	38	A	市有
ひばりが丘北第二学童クラブ	67	RC	1978	38	A	市有
住吉学童クラブ	149	RC	1978	38	A	市有
保谷柳沢学童クラブ	72	RC	1994	22	D	市有
保谷柳沢第二学童クラブ	102	LS	1989	27	D	市有
東伏見学童クラブ	141	LS	2010	6	A	市有
東伏見第二学童クラブ	94	LS	2010	6	A	市有
下保谷学童クラブ	114	RC	2011	5	A	市有
ひばりが丘第一学童クラブ	199	RC	2011	5	A	市有
ひばりが丘第二学童クラブ	150	RC	2011	5	A	市有
田無第二学童クラブ	143	LS	2006	10	A	市有
北芝久保学童クラブ	114	RC	1981	35	C	市有
上向台学童クラブ	65	RC	1978	38	D	市有
上向台第二学童クラブ	182	LS	2012	4	A	市有

※みどり学童クラブは、平成 26 (2014) 年度に転用改修工事を実施し、劣化状況は「D」から「C」となっています。

※新町学童クラブは、平成 27 (2015) 年度に改修工事を実施し、劣化状況は「C」から「A」となっています。

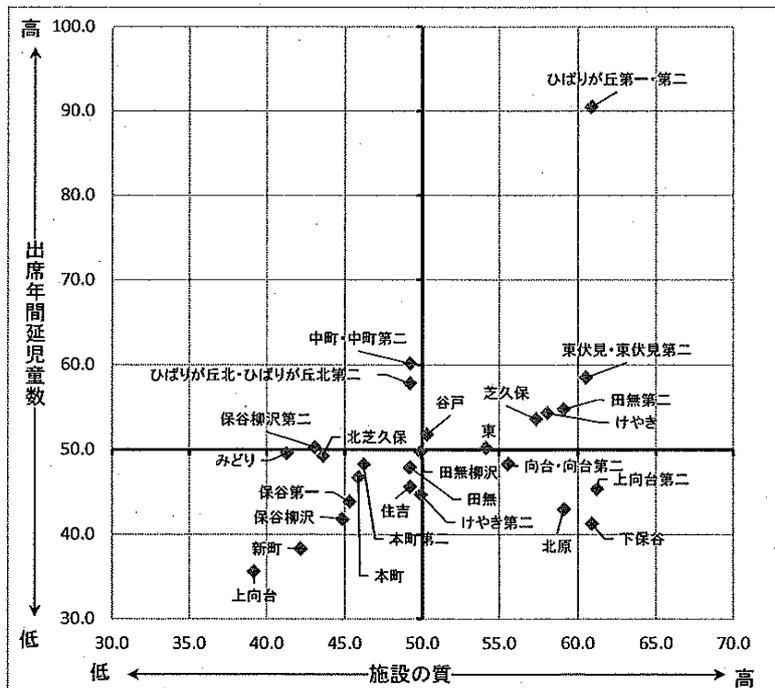
(3) 施設の利用・運営状況

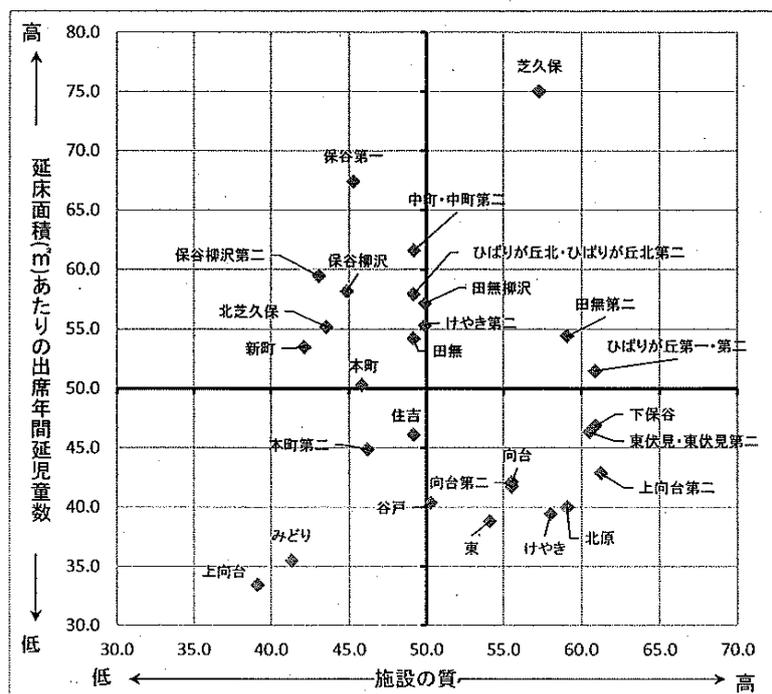
- 過去5年間の在籍年間児童数と出席年間児童数を見ると、いずれも増加傾向で推移しています。
- 平成26(2014)年度には、ひばりが丘北第二学童クラブと中町第二学童クラブを新設し、平成27(2015)年度には谷戸第二小学校内に谷戸第二学童クラブを新設し、平成28(2016)年度には向台小学校内に向台第三学童クラブを設置するなど、需要増への対応を図っています。
- 施設運営の面では、平成19(2007)年度からは北原学童クラブで、平成20(2008)年度からは向台・向台第二・谷戸の3つの学童クラブで、平成27(2015)年度からは東伏見・東伏見第二の2つの学童クラブで、民間への運営委託を実施しました。また、平成23(2011)年度からは、ひばりが丘第一・ひばりが丘第二学童クラブとひばりが丘児童センターを、下保谷学童クラブと下保谷児童センターをそれぞれ一体的に運営委託するなど、利用者サービスの向上に努めています。



(4) ポートフォリオ図から見える課題の考察

- 出席年間延児童数で見ると、上向台学童クラブと新町学童クラブが低位にあります。今後は、要因の分析や意見聴取等を踏まえ、出席児童数の増に向けた対応が望まれます。
- 延床面積あたりの出席年間延児童数で見ると、上向台学童クラブとみどり学童クラブが低位にあり、今後は施設の運営効率の改善が望まれます。





2. 見直しの方向性

① 需要増への対応 <基本方針1> **短期目標** **中長期目標**

学童クラブの在籍児童数は増加傾向にあり、当面は需要の高さが見込まれることから、「西東京市人口ビジョン」などに基づく児童数の推計を踏まえ、地域の需要の動向を見極めた上で、小学校の余裕教室等の活用や他の施設の転用により、需要増に対応します。

また、小学校の通学区域の見直しが検討されたり、大規模宅地開発等があった場合は、それにより対象地域の学童クラブの在籍児童数がどのように変動するかを予測した上で、柔軟に対応します。

中長期的には、児童数の減少が見込まれることから、低利用や老朽化に課題のある施設への対応を含め、集約化や周辺施設との複合化など、施設の適正規模・適正配置を検討します。

② 運営の効率化とサービスの拡充に向けた検討 <基本方針2> **短期目標**

委託運営の導入にあたっては、サービス水準の維持・向上と管理運営コストの抑制の観点から、現在の委託運営の評価・検証を踏まえ、児童館の委託化方針と併せて、民間活力の活用に向けた方針を決定します。

③ 施設の耐震対応 <基本方針3> **中長期目標**

西東京市耐震改修促進計画における耐震化目標（平成32（2020）年度までに耐震化100%）の達成のためには、学童クラブ施設の耐震対応について具体的な対応策を決定する必要があります。

このため、北芝久保学童クラブ、中町学童クラブ、ひばりが丘北学童クラブ、けやき第二学童クラブ、田無柳沢学童クラブについては、順次耐震診断を実施し、診断結果を踏まえた対応を進めます。

3. 今後の取組スケジュール

短期（～平成 30 年度）	中長期（～平成 45 年度）
<ul style="list-style-type: none"> ◇各地域の需要動向等を踏まえた需要増への対応 ◇委託化方針の決定 ◇学童クラブの耐震対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各地域の需要動向等を踏まえた需要増への対応 ◇施設の適正規模・適正配置の検討 ◇方針に基づく委託化の順次拡大* ◇学童クラブの耐震対応

（※印のあるものは前段の検討の結果により実施の是非を含めて判断）